

◎以下の項目に配慮し、基本設計において具体的に検討を進める。

	項目	論点	考え方
1	整備場所 (立地場所)	・E案(県庁南別館東側)での整備	・県民会館のオープンスペースと一体感を持った空間として整備し、広くエントランスアプローチがとることができるE案で検討
2	防災・危機管理拠点	(1)整備する諸室	・使用目的や参集する人員にあわせ対応できるように、可動間仕切りで柔軟に対応
		(3)耐震性・耐浸水性	・十分な耐震性、耐浸水性(最大5m)を有し、情報システム等の機能維持が可能 ・非常用発電機や機械類を安全な高さに設置
		(3)連絡動線の確保	・1階の入口に加え、県庁南別館及び東別館からの連絡通路を設置 ・平常時の利便性やバリアフリーへの対応
		(4)広域拠点施設との連携	・広域消防防災センター、各土木センター等との連携を強化
3	ライフラインの確保	電力、給排水、その他ライフライン	・電力については、72時間以上機能を維持できる非常用発電機を設置 ・給排水については、長時間の断水に耐えられるよう検討 ・その他(燃料タンク・空調等)についても、長時間、機能を維持できるよう検討
4	防災情報機能の充実	(1)防災情報機能の充実	・センター移転を機に、システムや回線のバックアップ機能の強化を検討 ・防災関係システムのサーバー等の移設は、必要スペース等を考慮し検討
		(2)映像情報機能の向上	・新たな映像情報システムを導入 ・気象情報、ヘリテレ、ドローン、TV等の映像情報を、庁内での共有を検討
5	地域防災力の向上	(1)研修・交流機能	・平常時の活用方法について、完成時まで積極的に検討
		(2)広域消防防災センターとの連携	・役割分担を踏まえた研修機能の強化と、四季防災館と連携した展示等を検討
6	環境や周辺環境等への配慮	・環境や周辺環境等への配慮	・景観に配慮したデザイン、省資源、省エネルギーに配慮した建物とするよう検討
7	規模・配置	(1)センターの階数	・防災部分5階層、庁舎3~4階層、機械室等1階層とし、9~10階層を基本に検討
		(2)屋上ヘリポート	・県庁周辺の状況を踏まえ、設置の方向で検討
		(3)諸室の配置・レイアウト・面積	・1階は交流・展示スペースや駐車場を配置 ・災害対策本部室等は中間階(2~5階)に配置し、一体的なフロア使用を工夫 ・機械室や電源室は最上階 ・面積は先行事例及び使用人数を参考に設定
		(6)駐車場	・危機管理センター専用の駐車場の整備について検討 ・災害時における関係機関車両の駐車場スペースについては、県庁全体のほか、周辺施設も含めて検討が必要
8	諸室の設備	(1)備品	・今後、必要な備品について洗い出し
		(2)映像情報システムのモニター設置	・映像情報システムのモニター設置について検討 ・インターネット環境(無線LAN等)の整備を検討
		(3)自販機	・災害対応も踏まえた自販機の設置を検討
		(4)コンビニエンスストア	・平常時の利便性向上や人が集まりやすい施設とする観点から検討